

# 2021 年度事業報告

## 1. 理事会・総会

日 時	2022 年 2 月 19 日(土) 午後 1 時(理事会) 午後 2 時(総会)
場 所	大阪キャッスルホテル
議 事	(1) 2020 年度事業報告 (2) 2020 年度決算報告 (3) 2020 年度会計監査報告 (4) 2021 年度事業計画(案) (5) 2021 年度予算(案) (6) 新役員の選出について

## 2. 第 6 期「市民自治講座」の開講

### □趣 旨

経済的価値観への一元化、人口減少と少子高齢化、都市及び中山間地域の衰退、ポピュリズムの勃興、ナショナルなものへの偏愛や非寛容の精神の跋扈など、危機は今そこに遍在している。

私たちはこれらの動きを、自治と民主主義の危機ととらえ、そのような時代潮流に抗して市民の自立と自律、自主と自治、共感と共生（連帯）を回復していく必要があると考える。このためには、市民が小さな空間を足がかりに、自ら文化を育み、そこからコミュニティや都市を再生していくことを通して、深刻化する社会の問題に立ち向かっていくほかない。その基礎には市民みずからが自治の哲学をつくりあげていくことが必要である。

「市民自治講座」は、これまでに蓄積されてきた人類の知恵から学ぶとともに、熟議を通して、新しい市民自治の姿を思い浮かべ、地域にねざした市民社会のつくり方を学び、市民の手で明日の自治をともに築いていくための基礎とすることをめざして開講する。

なお、今回は同一の講師による講演ではなく、地域自治組織の事例報告やパネルディスカッションを行うなど新しい試みとなった。

- ・主 催 「市民自治講座」実行委員会  
(特定非営利活動法人NPO政策研究所・大阪市政調査会で構成)
- ・講 座 連続 3 回で構成する講座を年 2 回程度開催予定。

- ・会 場 原則として大阪市内（ドーンセンターなど）
- ・参 加 どなたでも。定員 30 人程度。連続参加を原則（スポット参加も可能）。

### □第 6 期「市民自治講座」

- ・共通テーマ「地域コミュニティを考える」

#### 第 1 回講座

「地域自治のしくみづくり ～共生の地域社会づくりをめざして～」

講師 中川幾郎（帝塚山大学名誉教授）

日時 9 月 10 日（土）14 時～16 時

#### 第 2 回講座

「地域自治協議会の取組み～ 先進事例から学ぶ ～」

報告者 馬袋真紀（朝来市与布土地域自治協議会部会長）

「中間支援組織の取組み ～コミュニティとシンクタンク～」

報告者 宝楽陸寛（（公財）泉北のまちと暮らしを考える財団代表理事）

日時 10 月 16 日（日）13 時 30 分～15 時分

#### 第 3 回講座

「地域コミュニティと公共性 ～市民社会のあるべき姿～」

講師 嶋田暁文さん（九州大学教授）

日時 11 月 19 日（土）15 時～17 時

#### 第 4 回講座

「これからの市民社会を考える ～持続可能な地域社会づくり～」

パネリスト 馬袋真紀／宝楽陸寛／嶋田暁文／直田春夫（NPO 政策研究所理事長）

コメンテーター 中川幾郎

コーディネーター 相川康子（NPO 政策研究所専務理事）

日時 1 月 21 日（土）13 時 30 分～16 時

### 3. 新・大阪の自治を考える研究会（仮称）の活動

2020 年 11 月 1 日に住民投票で大阪市廃止・分割が再び反対多数で否決されたことをうけて大阪の自治を考える研究会は終了したが、その後も維新政治のもとで広域一元化条例の制定など大阪の自治を侵害するうごきがあり、来年春には統一自治体選挙も行われる。一方で人口減少やポストコロナを見据えた都市のあり方についても中長期的に考える必要がある。このような認識のもと、引き続き大阪の自治の現状を考える研究会が新たに発足した。当面は REAL OSAKA や連合大阪有識者会議とも連携しつつ、研究者や市民活動家などゲストスピーカーを呼んでの学習会と内部委員による企画会議・情報交換をそれぞれ交互に隔月で行う。

参 加	大阪地方自治研究センター・自治労大阪府本部 大阪市政調査会など		
経 過	第4回研究会	3月23日(水)	午後4時～
	第5回研究会	4月20日(水)	午後4時～
	第6回研究会	6月7日(火)	午後5時～
	第7回研究会	7月21日(木)	午後5時～
	第8回研究会	9月7日(水)	午後3時～
	第9回研究会	10月26日(水)	午後4時30分～
	第10回研究会	12月14日(水)	午後4時30分～

#### 4. 会誌「市政研究」の定期発行

会誌「市政研究」については、第214号(2022年冬季)では**特集●大阪の実例から見るポピュリズムの諸相**を発行。北米・ヨーロッパ各国でポピュリズム政党・勢力が生まれ、大阪でも大阪維新の会が大阪府市をはじとする自治体で首長・議会を制している。世界的なポピュリズムの動向を踏まえ、維新政治を振り返った。

第215号(2022年春季)から第217号(2022年秋号)では連続して**特集●大阪市の課題**を発行。今春の統一自治体選挙を前にして、市民への情報提供も目的として「大阪市の課題」を共通のテーマとして、**制度・行財政**(第215号)、**経済・防災・交通・水道**(第216号)、**福祉・住宅・教育・文化**(第217号)の各分野での特集を組んだ。また、大阪市の学校現場の現状をレポートするシリーズも開始した。

□第214号(2022年冬季)

##### 特集●大阪の実例からみるポピュリズムの諸相

試論：ポピュリズムの社会学的分析に向けて

薬師院仁志

「大阪維新の会」の組織と活動

富田宏治

——「組織されたポピュリズム」の虚像と実像——

「維新とメディア」をどう見るべきか

松本 創

##### 図書紹介

ポピュリズムに関する書籍

谷合佳代子

連載 なにわ路上観察紀行 第67回 京都府綾部市界限

小粒だが進取の気でキラリと光る町

前田和男

おおさかミュージアム雑感④⑤

堺県門真一番下村  
新・韓国通信 韓国風土記⑰  
～公正と常識～

加藤英一  
金 徳 煥

2・3月議会で求められる IR（統合型リゾート）誘致の  
ファイナルアンサー  
——大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画（案）  
に関して——

川嶋広稔

この10年の維新政治雑感  
——市政だより・高校移管・都構想工程表を例として——

木村 収

□第215号（2022年春季）

**特集●大阪市の課題Ⅰ——制度・行財政**

政令指定都市の変容と大阪市の課題  
大阪市財政の危機  
——夢洲整備の財政リスク——  
大阪市における都市内分権の課題  
少数会派からみた大阪市会・大阪市議会議員選挙・  
議員定数の現状と課題について

北村 亘  
森 裕之  
阿部昌樹  
武 直樹

図書紹介

濱口桂一郎著（独立行政法人労働政策研究・研修機構）  
『団結と参加 労使関係法政策の近現代史』  
連載 なにわ路上観察紀行 第68回 京都府亀岡市界限  
コスパの良い“一駅小町”  
おおさかミュージアム雑感⑯  
池田の猪のハナシ  
新・韓国通信 韓国風土記⑱  
～五年の憂鬱～

千本沢子  
前田和男  
加藤英一  
金 徳 煥

シリーズ●教育「改革」を問うⅠ  
学力「向上」の背後で増加する  
不登校の子どもたち

濱元伸彦

□第 216 号 (2022 年夏季)

**特集●大阪市の課題Ⅱ——経済・防災・交通・水道**

大阪経済の課題	野口 隆
——自治体の産業政策について——	
大阪市における都市防災の課題	室崎益輝
大阪市における都市交通の課題	高橋愛典
——地域公共交通会議の議論から考える——	
「蛇口の向こうの水道」をみんなで考えて共有する	辻谷貴文
——みんなで創るより良い水道のために——	

図書紹介

川野英二・編	
『阪神都市圏の研究』	伍賀偕子
連載 なにわ路上観察紀行 第 69 回 京都府長岡京市界限	
平城京と平安京を繋ぐ歴史的リリーフ	前田和男
おおさかミュージアム雑感④⑦	
池田イケダ伊居太	加藤英一
新・韓国通信 韓国風土記⑱	
～時代の逆戻り～	金 徳 煥
草の根 20 万の一撃	幸田 泉
——カジノを巡り大阪で 45 年ぶりの直接請求署名運動——	

□第 217 号 (2022 年秋季)

**特集●大阪市の課題Ⅲ——福祉・住宅・教育・文化**

大阪市における地域福祉の課題	松端克文
母子世帯の居住貧困を救う民間力の可能	葛西リサ
——先駆事例から考える大阪市に求められる居住支援の視点——	
大阪市の公教育「再生」のための覚書	住友 剛
——失敗した教育改革の「後始末」は誰がどうやって行うのか?——	
大阪府市の文化政策に何が必要なのか	吉田隆之
——コロナ禍の世界のアート・芸術祭の潮流を踏まえて——	

図書紹介

バンド・デシネ (フランス語漫画) で読む格差社会	谷合佳代子
連載 なにわ路上観察紀行 第 70 回 兵庫県朝来市和田山界限	

地方に潜む未来の警報装置

前田和男

おおさかミュージアム雑感④⑧

漱石は大阪から出航した

加藤英一

新・韓国通信 韓国風土記②⑩（最終回）

～法治の危機～

金 徳 煥

シリーズ●教育「改革」を問うⅡ

学校選択制のなかで揺れる大阪市の学校の現状

濱元伸彦